

異常が日常化すれば、正常化する

酪農場での色々な作業の仕方を表しています。酪農家の作業内容は、親から子へ伝承されてきています。その作業の仕方は伝えられているのですが、その必要性や理論面のなぜ？は伝承はされている事はあまりありません。理論面の理解ができれば、その作業の精度は上がり、おかしな状況を読めるようになります。酪農家の作業時間帯が同じであるために、隣の酪農家の作業を見る事もあまりありません。ある意味酪農場という閉鎖された社会になっています。それが異常を日常化する大きな原因です。

現在の物事の考え方であれば、おかしな事をしている事は一杯あります。それが酪農場の現場では、毎日の作業となり、考える暇もなく、日々継続されます。異常が日常化しているのです。異常の日常化が進めば進ほど、その異常作業の内容を疑問視する事はなくなり、それがあたかも正常であるかの如く思われます。そしてその異常作業がその酪農家の常識になりかねません。

例えば、搾乳作業です。搾乳前の準備、搾乳のやり方は伝わりますが、なぜその作業をするのかがありません。伝統的に1枚のタオルでお湯を交換しながら搾乳をするやり方は、昔ながらの搾乳作業として伝わってきました。今は否定されていますが、なぜそれが悪いのかが議論されません。その議論があれば、今後どのようにすべきかが見えてくるはずですが。

実例です。ある酪農家の搾乳作業に立ち会いました。その酪農家では全頭の鼻環を柱に縛り、すべての後ろ足をロープで縛り搾乳をしていました。通路はロープだらけで、人の移動もままなりません。なぜこのような作業をするのかと質問をすると、牛がうるさいからだとの返事。育成牛、導入牛のすべてがお宅ではうるさいのですか？と質問。1頭2頭はあり得ても、すべてがうるさいのはおかしくありませんか？本当にうるさい原因は何でしょうか？などと色々な質問をぶつけてみました。

原因は過搾乳をするから乳頭が痛み、蹴りたくなります。なぜ過搾乳をするのか？最後の一滴まで搾らないと乳房炎になると思っているので、徹底的に搾るので常に過搾乳になる。この酪農家の乳房炎に対する考え方が、昔の考え方のままなので、このような事態が連鎖して起こります。

今一度作業を見直す事は大変重要な事ですが、是非ともしなくては行けない事です。作業のやり方、時間帯、他の作業との連携、作業頻度など考える視点は一杯あります。

鼻環を縛られている2頭の牛



その酪農場の乳頭口

